議長記者会見（第５１回）会見録

日時：令和６年１２月１９日（木）
午後２時００分から
場所：石川県議会議事堂
議長応接室

会見を行う善田議長（右）と室谷副議長（左）

最初に、今定例会を振り返ってであります。

今議会も９月定例会に引き続き、能登半島地震、奥能登豪雨からの復旧・工事に関して、活発な議論が繰り広げられました。創造的復興プランに掲げた「産学官石川復興プロジェクト会議」の取り組みや、災害公営住宅整備への支援、災害ボランティアや技術職員の確保、災害関連死の防止など、多くの質疑がなされました。

議会としても、地震と豪雨の複合災害から１日も早い復旧・復興の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

また、災害対応における県の組織体制や、総合的防災拠点の整備、動物愛護基金の設置など、安全・安心かつ持続可能な地域づくりに関しても活発な議論がなされました。

議会としても、県民が安心して暮らせる社会の構築に繋げていけるよう、今後も執行部としっかりと議論をしてまいりたいと思っております。

他にも、今議会では、金沢駅東都心軸地域の再開発や金沢城公園の整備、インバウンド促進の取り組み、IR いしかわ鉄道の利便性向上など、県政が直面する多くの課題に関する質疑がなされました。

今後とも、議会として、こうした多方面の多くの課題に対して、執行部と丁寧に議論を行ってまいりたいと思っています。

執行部においては、今定例会での議論を踏まえた上で、施策の実行に取り組んでいただきたいと思っております。

次に、今定例会中に可決された意見書でありますが、意見書等調整会議において調整等がなされた結果、各会派から提案のあった 6 件の意見書のうち、「学校施設における防災対策への更なる支援を求める意見書」など 3 件が可決されました。

可決された意見書に関しましては、議会として国へ要望することになりますので、国会および関係行政庁へ提出することとしております。

それから、今年を振り返ってであります。

今年は能登半島地震が元日に発生し、県政史上未曾有の大災害による年の始まりとなりました。

その能登半島地震からの復旧・復興への歩みを進める中、9 月には奥能登豪雨による被害が発生しました。

改めて、災害で亡くなられた方々とそのご家族に哀悼の意を表するとともに、被災された方々のご苦労を思い、心からのお見舞いを申し上げます。

同時に、厳しい状況の中で、救援・救護活動や、被災された方々への支援、復旧・復興の作業に従事されている多くの関係者の皆様の尽力に深く敬意と感謝を申し上げます。

天皇皇后両陛下におかれましては、本年 3 月と 4 月に加え、一昨日 17 日にも被災地をご訪問いただき、現状をご覧いただくとともに、避難所をご訪問いただき、被災者の方々に慈愛に満ちた優しいお言葉をおかけいただきました。両陛下の温かなお心遣いは、被災者の大きな励みとなったものと考えており、心より感謝を申し上げます。

地震の発生から 1 年目の節目となります来年元日の 1 月 1 日には、日本航空学園能登空港キャンパスの体育館において、ご遺族の方々をはじめ、政府関係者、県議会、県内市町、県選出国会議員の皆様などの参列のもと、追悼式が開催されます。議長の私も参列し、亡くなられた方々への哀悼の意を表し、地震、豪雨からの創造的復興に向けた決意を新たにしたいと思っています。

また、明るい話題といたしましては、今年 3 月には、県民の 50 年来の悲願でありました北陸新幹線の県内全線開業が実現し、南加賀地域と首都圏が新幹線で繋がるとともに、北陸 3 県が一時間圏内で結ばれました。

同じ3月には、首都圏アンテナショップ「八重洲いしかわテラス」が移転オープンし、7月には、大阪に北陸 3 県共同の情報発信拠点となる「ホクリクプラス」がオープンしました。10 月からは、国内最大級の観光キャンペーンである「北陸デスティネーションキャンペーン」が実施され、新幹線県内全線開業後、北陸新幹線の利用も増加しており、インバウンドの入り込みも好調となっております。

しかしながら、一方で、南加賀の宿泊施設の一部からは、関西・中京圏からの誘客に期待したほどには手応えが感じられないという声もあり、北陸新幹線の整備効果を最大限発揮するためには、何よりも一日も早い大阪までの全線開業の実現が必要不可欠であり、政府・与党においては、施工上の課題への対応はもとより、着工5条件を解決できるのか、沿線自治体の意見も踏まえ、精力的に検討を行っていただきたいといったことを、昨日、石破総理、それから中野国土交通大臣及び各党の幹部に要望に行ってまいりました。

今年は、議会におけるデジタル化の取り組みも進みました。

2月には、新たに議場の Wi-Fi 環境を整備し、議場へのタブレット端末の持ち込みが可能となりました。

また、9月定例会からは、ペーパーレス会議システムの運用を開始し、議員は、議場に持ち込んだタブレット端末で、会議資料の閲覧や審議に関する情報の検索などを行っております。

今後も、議会のデジタル化を着実に進め、利便性の向上に繋げてまいりたいと思っております。

私からは以上であります。

＜質疑応答＞

記者

議長として、首相にどのようなことを申し伝えて、その感触、首相がどういう反応だったか、どう見えたのかを教えていただけますか。

善田議長

私は、石破総理には、早く日本海側と太平洋側を新幹線で結んでほしいといったことをお願いをいたしました。

それから、小浜ルートは約 140 キロですが、米原ルートは約 50 キロになります。費用に関しても約3分の1となりますから、米原ルートの再考を求めました。

特に、小浜ルートの場合は工期が約 30 年と言われています。多分、私が思うには、40 年かかるのかなと思うんですけれども、大深度といったリスクのある工法ですし、50 年後には日本の人口が9千万人弱になるとも言われてますから、今後の地方創生という意味で、早期に新幹線全線開業のお願いをしました。

記者

　これに対する首相の反応はいかがでしたか。

善田議長

　そうですね、とうなずいておられました。十分理解をいただいたと思っております。特に、人口減少問題に関して、40 年後は世の中が変わっていますので、なるほどと言っておられました。

記者

　新聞報道によると、慎重に検討すると答えたみたいなことが書いてありましたけれども、熟慮するという言葉はあったのでしょうか。

善田議長

　そうですね。

記者

　そうすると、小浜ルートだけでなく、米原ルートも含めて考えていただけるというニュアンスで受け止められましたか。

善田議長

　我々、行った者はそう感じました。なかなか本音を言えないような立場におられると思いますし、与党で決めていることなので、言葉は大分慎重でしたけれども、感覚的には、すごく理解をしていただいていると感じました。

　石破首相もそうでしたけれども、森山幹事長が特にそうでしたね。なるべく早く、それから経費をかけないことが大事だといったことを幹事長もおっしゃっていたので、すごく心強く感じました。当初 2 兆 1 千億円が 5 兆 3 千億円になるということは、本当に膨大な金額になりますので、幹事長は、立場上明言できないと思いますけれども、とにかく早く、経費をかけないということをおっしゃっていたので、そうなると米原しかないのかなと私達は感じました。

記者

　与党の自民党が、やっぱり小浜京都ルートでやるというふうな意向で、週内にもう一回協議するというので、ある程度、方向性を固めるのかもしれませんけれども、政府の方で、石破首相がリーダーシップをとってまた再考するとか、自民党本部の方で何かがまたあるということもあり得るのでしょうか。

善田議長

私にしてみれば、プロジェクトチームでルートを決めても、国が認可するかどうかということは別だと思います。国が認可をするところで、今、自民党もいわゆる過半数割れをしていますので、どういった流れになるのかなといったことも感じます。

記者

お二人の県政に対する真摯な思いをお聞きして感動している立場なんですけれども、県政自体の議論が、能登はもちろん重要で能登の話になっているんですけれども、加賀の話が少なかったのかなという気もするのですが。加賀地域の振興に向けて、何か思いがあれば。

善田議長

加賀市は、副議長で。

室谷副議長

ちょうど加賀では、エンジン０１（ゼロワン）文化戦略会議が山代温泉で来年 9 月にありますし、それから山代温泉開湯 1300 年ということで、今盛り上がっています。

観光協会が言っていたのですが、北陸新幹線に関して、何か周りを見ると、加賀に人が来ていないっていうことを言われていますけれども、実際、昨日の数字では 10%増の方が来ているんですよ。いわゆる東京方面から来た人がとても多いんです。加賀としては、一応 10%ほど増えているんだけれども、多くの地域の中で、奥座敷である関西・中京方面が苦しいと。元々、関西・中京の方々が来るのは冬なので、これからですが。

そういうことで、今ほど議長もおっしゃられたように、石川県全体としても、このままだったら大阪までいつまでかかるかわからないと。加賀市長と小松市長は、今熱心に、南加賀の向上のため頑張っています。

今この時期に、自分のところだけ我田引水はできません。まず能登の復興プロジェクトの推進。創造的復興プランができてきて、輪島とか和倉が良くならないと南加賀も良くならないということです。南加賀には能登の方々が結構来ておられますし、雇用制度を使って旅館でも働いています。南加賀では、2 千人以上の方を、ついこの間まで受け入れてましたので、その方々と私たちも話し合いをしました。何ヶ月も一緒にいたのに、もう知らないといったことはできません。

そういうことで、今年 1 年はしっかりと南加賀が能登を助ける。加賀市も小松市も能登全体を良くして、それを来年にも繋げていきたいということです。

記者

さっきも知事に聞いていたのですが、いろんな考え方があると思うんです。県議会の中で、何か忘年会みたいなものをされるご予定というのはあるんですか。

悩ましいところで、被災地に聞くと、当然、被災している事業者のところで忘年会をやって経済を回した方がいいということで、結構されているみたいなんですけれども、県の中央病院とか忘年会をされて、知事がそこに挨拶に行ったりして、それはどうなのっていう声も出ていて。県議会として忘年会に対するスタンスみたいなものというのはあるのでしょうか。我々が今まで取材してきた議会だと、大体、最後の議会が終わったら忘年会をして、その年のことを、親交を深めるっていうのはよくある例だと思うのですが、何か考えていらっしゃるのでしょうか。

善田議長

2020 年の 3 月にコロナウイルス感染症が発生してから、ここ数年ずっと、そういった忘年会的なものは控えるということで、ずっと無かったように思っています。ただ、昨年ぐらいからは、少し親睦を深めることによってチームワークというか団結も強まりますし、特に飲食店の方々から暇だ暇だという声もあったので、やっぱりしないといけないねっていうふうにはなりました。しかしながら、今年の元日の地震によって、そういったことも自粛となったので、私個人的には、そろそろやっていくべきじゃないかなとは思います。

記者

今のところ、今年はないと。

善田議長

議員同士ではないですね。自民党も記者さんとの懇談会とかありましたが、今年はないですよね。能登の議員さんもおられますので、党としては、そういったことは行っていないです。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

先ほどの副議長のお話というところはあるんですけれども、来年も引き続き、能登の復旧・復興に向けた取り組みが課題になってくると思うんですけれども、県議会として、改めて力を入れて取り組んでいきたいことや、課題としてあがってきそうなことがあったら教えてください。

善田議長

来年に向けて、今回の定例会でもいろいろと質問等がありましたけれども、そういったことを、しっかりと取り組んでいかなくてはいけないと思っております。まだまだ被災されている方、また避難されている方がいらっしゃいますので、そういった方が早く、ちゃんとし

た住まいに住まわれるということを望みたいと思います。

　それから、能登の人口減少がすごく心配です。話を聞いていると、もう能登に戻れないという方もいらっしゃいますから、何とか能登に戻ってもらえるようなことを、しっかりと来年は取り組んでいって、少しでも能登に戻ってもらえるような、そんなことをやっていかなくてはいけないと私は思います。

以　上